

建築教育本委員会

A.日 時：2007. 6. 15 (金) 18:00～20:00

B.場 所：建築学会会議室

C.出席者：委員長 稲葉武司

幹事 長澤 夏子 元岡 展久
委員 阿部 浩和 石川 孝重 三輪 律江
工高教育WG 堀内 仁之
小委員会幹事 衣袋 洋一 伊村 則子 藤岡 泰寛 横山 ゆりか

D.提出資料

1. 将来検討委員会
2. 建築教育委員会を考えるために 稲葉委員長より
3. 懇談会資料原稿 ネットワーク小委員会 石川主査より
4. 懇談会資料原稿 研究小委員会 阿部主査より
5. 調査研究委員会主催 実施計画書

事務局 当面、浜田さんの代理 森脇さん (moriwaki@)

議事に先立ち資料内容の確認を行った。

- ・前回議事録の確認。
- ・提出資料：建築教育委員会を考えるために 稲葉先生「日本建築学会120年略史より」その変遷を概観し、今後の建築教育に関する問題を探る。

E.報告事項

稲葉委員長より：教育賞が決まり意義があった。今後、本委員会とも関わりを考えていく。

1.建築教育将来検討小委員会 (衣袋幹事より)

・建築界と教育界を取り巻く大きな環境変化に対応するためには「マーケットインのアプローチによる建築教育」と「産業界と教育界が連携した人材育成」が重要。人選中。
委員長より：目に見える形の成果を(シンポジウムなど)
産業界の教育を聞いて、その中で大学院の教育を考える。

2.建築教育研究小委員会 (阿部主査より)

- ・建築教育シンポジウムの継続
- ・スケジュール 7月企画 9月中旬論文募集締切り一査読 開催1月26日 (決定)
- ・大会でPR
- ・小委員会委員の人選については、横山幹事+4～5名 (これまでのシンポジウムパネラーなど機動力を重視したい) +公募若干名
- ・委員長：「研究」は広い範囲なので、テーマを絞ってみてもよいのではないかと
- ・設計プロセス研究などを考えている。
- ・シンポジウムの資料の工夫 (→広告など含め、ジャーナル化) 読まれるように。
- ・教育事例の報告や、制度報告が多い。
- ・教育賞受賞者などの、報告を載せたりしてはどうか。(HP、大会、建築雑誌に掲載されるがそれ以外はない)

3.工高教育WG (堀内主査)

- ・文部省指導要領の枠があり、実質的な教育問題の検討をすることが難しかった。近年、「ものづくり」の課題があり、連絡協議会をつくりたい。
- ・第38回工業高校建築教育研修会、「生糸・絹の生産機構を巡る」催し物実施計画書は承認された。

4.建築教育ネットワーク小委員会 (石川主査)

・学会の中にある多くの「教育関連」のネットワークをつくる。建築教育の細分化を防ぎ、「ホリスティックな教育」の意義などについて世界へ向けて説明することなど、検討する。
市民、大学、高校、子供まで、事業教育としては、境界領域的な部分が重要と考えている。
具体的には、懇談会などの開催1～2回行う (予定を決める一年内に1回目を検討したい)。
学会内の調査委員会だけでなく、事業委員会も含めて懇談会を行いたい。
伊村幹事+懇談会をしながらメンバーを増やしていく。+公募も来年くらいに。
連絡協議会と連携も。

5.建築教育アウトリーチ小委員会 (三輪主査)

・他の小委員会との住み分けを明確にしたい。建築学の実践教育、都市計画、地域、社会への還元を考える。他の学会でも事業 (子供、環境教育NPO、都市計画デザイン、キャンパスの地域貢献、、、) として展開されている。藤岡幹事の他、現場で行われている方で委員構成を考えている。

委員長：ひとつに、UIAが子供を支援するプログラムを立ち上げ、来年トリノ大会はよい教育プログラムを紹介する企画がある。その日本代表は、建築家協会と建築学会がやる以外ない。日本の子供の教育プログラムに関するネットワークを立ち上げる必要がある。その中心になっていただきたい。[Golden Cube] 次回は、日本がそのホストカントリーである。
それ以前に、日本の地域～子供などへのプログラムを収集分類しておく必要がある。

6.学会事務局より：コアになる小委員会委員を確定していきたい。(7月の第一週までに各小委員会で決定してそれで確定し連絡)

7.本委員会のメンバーは、本日参加者に五十嵐主査を加え、11名決定。

8.大会懇親会の原稿は6/22締め切りでパネリスト、全小委員会幹事に依頼中。

9.本委員会幹事より、建築教育委員会HP仮ページの報告。後日、案内するので閲覧のうえ意見が欲しいと依頼があった。

次回 7月20日 (金)

予定議題： 電子会議の準備 (学会のシステム、SKYPE など)

以上